

歴史遺産の地盤工学に関する研究委員会
石像構造物部会 東京湾要塞小部会
第一海堡調査報告会議事録

日時： 平成 29 年 6 月 30 日（金） 16～18 時

場所： 関東地方整備局 港湾空港部 横浜第二合同庁舎 14 階 141 会議室

参加者： 正垣孝晴， 昌子住江， 野口孝俊， 津口雅彦， 内田篤貴， 藤井幸泰（委員会メンバー）

片山哲哉（太平洋コンサルタント）， 奥田大史・因幡裕（防衛大学校）

石崎力・林田善久（関東地方整備局），（敬称略）

■ 打合せ内容

正垣部会長挨拶

(1) 調査報告会

① 第一海堡全景動画の披露（津口委員提供） 【野口委員説明】

護岸や石垣の状況，崩壊している砲台跡などを中心に紹介がなされた。

② 護岸調査報告 【野口委員】

今回調査の目的は，第二海堡の保全を適切に行うための参考データの収集である。

第一海堡は財務省が管理する財産であり，これを直接の研究対象とするわけではない。

護岸の状況や設計・施工が現代技術に通じること，石垣は野面積みと間知石があることなどを報告された。さらに今回の目視観察の範囲外であるが，材料の偏光顕微鏡観察により，軽量モルタルのような水和硬化体（現地の細砂とセメント）と人造石（マサと石灰のたたき）を確認できたことなどを報告された。

③ UAV 撮影による三次元モデル化について 【津口委員】

現地調査，基準点設置と観測，空中写真撮影，動画撮影を現地で実施した。三次元モデルやオルソ画像作成と共に，海堡全体や崩壊部等の面積計算を試みた。三次元モデルからは断面線を作成できる。さらに三年前のヘリ撮影結果との比較などを今後解析予定である。

④ 第一海堡建設材料強度調査：結果速報と今後の方向性（岩石・コンクリートの強度と風化）

【正垣部会長】

ドライドック・岸壁・石原岳堡塁での岩石・コンクリートを対象としたシュミットハンマー強度試験の結果を報告された。第一海堡に加え，横須賀・相生・因島・呉・舞鶴・佐世保ドックの石材なども対象にしている。防衛大のコンクリート調査も実施済みであり，今後解析予定である。

(2) 今後の取りまとめ

正垣部会長：本日の報告結果を受けて，メール等で連絡を取り合いまとめていく方向が良いだろう。また，委員会としての取りまとめ方も考慮する必要がある。さらに一般向け講

演会の開催も考えていきたい。

野口委員：現在は委員会向け報告書（資料配布）をとりまとめ、財務省へ許可を申請している。

昌子委員：二年前の横須賀港開港 150 周年では、横須賀市と共催した市民向け講演会が好評であった。このような外部向け報告会は出来るであろうか？

野口委員：第三海堡は横須賀市にあるが、第一と第二海堡は富津市にあたる。富津市で行う方が良いかもしれない。しかし関東地方整備局としての市民向け講演会の開催は考えていない。学術的な報告会から初めるのが良いのではないか。

藤井幹事：秋ごろ開催予定の次回全体委員会でも報告してほしい。また地盤工学会関東支部発表会（Geo-Kanto）などでも、報告することを考えてはどうか。

（Geo-Kanto： 8/7 申込締切，9/7 論文締切，11/17 発表）

野口委員：明治制定 150 周年記念行事が来年度に予定されている。このような動きも見ながらすすめてはどうか。

★まずは Geo-Kanto など、公表できるところからやってみてはどうかということになった。

以上